

成果指標				
成果指標	施設利用者数を活用頻度とする。			
指標設定の考え方	施設利用者数を活用頻度とする。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標27年度
目 標	15000	12000	12000	12000
実 績	12161	13482	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	施設使用料免除の増加になることによる施設維持費の増加			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	施設利用が増加しているため、今後は利用者の動向を見ながら利用に不都合が生じないように注意していく必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	担当者の評価の中に、「伊予市市民会館が建設されるまで」という記述があるので、差し戻しを行い、訂正させてください。

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題